



①ベルギー 69%

結婚しない生き方もあるが、一般的には、多くの人が結婚する。そして結婚期間が長くなると、幸せな結婚生活イコール幸せな人生ということになる。しかし、結婚につきもののが離婚。異なる2人が共に生活することは簡単そうだが、意外に難しい。ちなみに世界の国別離婚率を見てみると

②ポルトガル
③ハンガリー
④チエコ
⑤スペイン
ロッパが高く、結婚した半数以上が離婚している。日本は世界平均の中位で35%だが、上昇傾向にある。

山口・島根地区のカトリック教会の役員をしていた時、ターニー(マ・エ)結婚との出会い)という「よりよい夫婦に

地区長の神父様から「この3組のチーム・カップルと呼ばれる夫婦のもとで週末の44時間「内省と対話」を繰り返しながら、より良い結婚生活について学ぶもの。地区長と私たち夫婦の3人で群馬に出かけ、その後も長崎でのM・Eに参加した。

そして1981年(昭和56年)地区で1回目のM・Eを下松市の国民宿舎大城を借り切って開いた。以来10年近く実施したが、自分たちの結婚生活にも役立つたと思っている。

かつて経験したことのない高齢化社会は、結婚生活を今までになく良いものにしている。

結婚50年を祝う金婚式は昔は珍しいものだったが、今は当然のもののように見られ、かく言う自分も結婚53年になる。

①老いをどう生きる⑤
②ボルトガル
③ハンガリー
④チエコ
⑤スペイン
と、断然ヨーロッパが高く、結婚した半数以上が離婚している。日本は世界平均の中位で35%だが、上昇傾向にある。

私が結婚に特に関心を持つようになったのは、結婚して25年、今から28年前のことである。

この40余年に世の中の変化なるための運動」を始めた。この運動はスペインのカルボ神父と1組の夫婦が1962年に始めたもので、日本では群馬県でフランシスコ会のダナン神父が中心に取り組んでいる。私と一緒に群馬県に勉強に行こう」と言われた。

結婚式でも「かものめのジョナサン」を引用し、M・Eのスローガンをよく披露した

心であるダナン神父も86歳になられ、初期の中心的夫婦も、一方が病気や亡くなられるなどして勢いを失っている印象を受けた。結婚の重要性は全く変わらないのに



今年のゴールデンウイーク、東京で全国のM・Eの集会(2年に1度開催)に参加した。

M・Eに限らず、どんなに盛會だったものも、中心的役割の人々が高齢化したりすると、勢いがなくなる。

日本のM・E運動の中心であるダナン神父も86歳になられ、初期の中心的夫婦も、一方が病気や亡くなられるなどして勢いを失っている印象を受けた。結婚の重要性は全く変わらないのに

この40余年に世の中の変化は目覚ましく、結婚をはじめいろんな価値観が少しずつ変化している。離婚の増加もその一つ。夫婦の間に考え方の違いや亀裂が生まれると、2人で歩み寄って一致する努力をするよりも、簡単に別れてしまう。

M・Eは1人の指導神父と離婚しないまでも、線路の如く交わらないまま。M・Eで学んだ「より深い二人の一致のために『対話』する」は高齢化社会で軽んじられておりながら、より良い結婚生活について学ぶもの。地元と私たち夫婦の3人で群馬に出かけ、その後も長崎でのM・Eに参加した。

老いれば若い時以上に2人が「顔と顔を合わせ」て信頼し、尊敬し合って生きることが、人生をより豊かにするのではないか。笑顔でありさつするというよう

が結婚生活。老いを輝いて生きる道は、結婚生活の中にあることは間違いない。